

はしがき

この報告書は、愛知大学人文社会学研究所ならびに答礼人形を里帰りさせる会（愛知）の主催のもと、2016年7月9日に愛知大学豊橋キャンパス記念会館小講堂にて開催されたシンポジウム「国際的民間交流と平和運動の歴史とアクチュアリティ——青い目の人形と答礼人形の辿った歴史から——」の記録を収録したものである。当日は、鉄道が止まるような荒れ模様の天候であったが、幸いにも会場には100名の来場者を得、また複数メディアの取材もあるなど、大いに盛り上がったシンポジウムとなった。「愛知」を名乗る大学で、建学の精神において「世界文化と平和への貢献」、「国際的教養と視野を持った人材の育成」、「地域社会への貢献」を三本柱としている愛知大学にとっても、このような「愛知」に縁が深く、かつ建学の精神に合致するシンポジウム企画を開催できたことは、大変な名誉であったと自画自賛している。

足元の悪い中ご来場いただいた市民・研究者の皆さま、開催に尽力いただいた愛知大学人文社会学研究所のスタッフならびに答礼人形を里帰りさせる会（愛知）の小野喜明会長・鈴木太事務局長・夏目勝弘事務局次長、シンポジウムのテープ起こしをしていただいた豊川宝飯ロータリークラブの藤原良枝さんに深謝申し上げる。藤村記一郎氏と合唱団には、「ミス愛知」の里帰りにあわせて青い目の人形にまつわるミュージカルを企画いただき、シンポジウム当日のオープニングセレモニーの形で披露していただく機会を頂戴した。あわせてご厚情に感謝申し上げます。

また、本シンポジウムは、2012年に行方不明であった答礼人形「ミス愛知」が発見（人形の発見自体は2010年で2012年に正式確認された）されたのを受けて企画されたものである。答礼人形を里帰りさせる会（愛知）は、「ミス愛知」の90年ぶりの里帰りの実現を目指して結成されたもので、会では2017年夏の里帰りに向けて、現在準備を進めている。2016年12月には、本シンポジウムを踏まえた第2回のシンポジウム（於・中京大学）を開催した。また、全国でも答礼人形の里帰り運動や、各地に眠る「青い目の人形」を探す運動は盛り上がりつつある。時間の都合で、今回のシンポジウムでは討論の時間や会場からの質疑応答の時間を設けることができなかったが、本シンポジウムで出された課題や問題意識については、第2回のシンポジウム等で受け継がれ深められながら、「ミス愛知」の里帰り展の企画充実に現在進行形で生かされているということでご寛恕いただければ幸いである。また、当日頂戴した報告のうち、「ミス愛知」の里帰り活動については、夏目勝弘氏と小野喜明氏のお二人のお話をいただいたが、重複する部分が多いことから、報告書採録にあたっては小野氏の話で代表させていただいたことを付言する。

ささやかな成果ではあるが、このシンポジウムと報告書が、「ミス愛知」の里帰りの実現、ひいては人形を通じた国際的な平和運動や交流の活性化、そして世界中の人々の相互理解にわずかでも資することがあれば、我々の望みはすべて果たされたことになる。

主催者を代表して 近藤暁夫